

富陽っ子のよりよい成長をめざして



～後期学校評価 結果の分析と今後の方策～

野々市市立富陽小学校
校長 東原 修身

冬の寒さが一層厳しく感じる今日この頃、皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、2学期末にお寄せいただいた学校評価アンケートの結果とその分析、今後の方策についてお知らせいたします。

【肯定的評価の見方】 A評価「できている（よくそう思う）」 B評価「どちらかといえばできている（だいたいそう思う）」

評価項目	目標値	児童 保護者		今年度 前期比
		A+B評価（A評価）	（A評価）	
1 自分には良いところがあると思いますか。	95%	90.9% (54.1%)	—	↑ +1.1
2 ものごとを最後までやりぬこうと粘り強く取り組んでいると思いますか。	95%	90.4% (49.5%)	—	↑ -1.2
3 友達と活動することは楽しいと思いますか。	95%	97.9% (85.2%)	—	↑ +1.5
4 「totoru」を用いたおたよりや学校ホームページ、学校公開や授業参観などをとおして、学校の様子が分かれますか。	95%	—	97.7% (49.7%)	↑ +2.0
5 課題を解決するために「算数めがね」（算数の見方・考え方）を使って、考えることができますか。	95%	81.9% (37.5%)	—	↑ -1.9
6 算数の授業では、相手が伝えたいことを、わかるとして聞くことができていますか。	90%	92.4% (57.6%)	—	↑ -2.3
7 算数の授業では、自分が何を伝えたいのかをはっきりさせて、相手にわかりやすく伝わるように話すことができていますか。	90%	80.2% (36.1%)	—	↑ -3.4
8 相手を見て自分からあいさつや会釈ができていますか。	90%	90.3% (60.4%)	—	↑ -0.2
9 子供や地域住民、見守り隊の方に、子供たちの手本となるようなあいさつができていますか。	90%	—	93.2% (38.5%)	↑ +0.7
10 困りごとや不安があるときに、自分から解決しようとしたり、先生や学校にいる大人に相談したりすることができますか。	90%	77.8% (40.8%)	—	↑ -3.3
11 行事や委員会、学級会などで、進んで考え方を話したり参加したりすることができますか。	95%	82.9% (46.9%)	—	↑ -0.2
12 体育の授業で、けがをしないように気を付けながら、積極的に体を動かすことができていますか。	95%	96.1% (76.4%)	—	↑ -0.3

【今年度前期比較】

↑ 5%以上プラス・100%維持

↑ 2%以上～5%未満上回る

↑ 差が2%未満

↓ 2%以上～5%未満マイナス

↓ 5%以上マイナス

【3学期の方策】

「自分には良いところがある」「やりぬこうと粘り強く取り組んでいる」「友達との活動は楽しい」について

本校では、「子供も教職員もみんなで伸びていく」という重点目標のもと、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでおります。その中で、「友達との活動は楽しいと思う」の項目は、前期に引き続き目標値を上回る結果となりました。

3学期は、児童一人一人が自分のよさや、2学期までと比べた伸びや変化を自覚できるように、学習や活動の目標（ゴール）を明確にし、学習過程を振り返りながら、よさや頑張りを適切に評価する指導の充実を図っていきます。また、保護者への情報発信については、学校ホームページや保護者連絡ツール「totoru（テトル）」を今後も活用しながら、必要な情報がより分かりやすく確実に届くように、日常的な連絡は児童の連絡帳等を基本とし、「totoru」の配信は必要最小限としていきます。

学習面について

児童の「算数の授業では、相手が伝えたいことをわからうとして聞くことができている」の項目は、前期に引き続き目標値を上回る結果となりました。一方で、「算数の見方・考え方を使って課題を解決すること」や「自分の考えを明確にし、相手に分かりやすく伝えること」に関する項目は、目標値を下回る結果となりました。

3学期は、授業の終わりに「どのような算数の見方・考え方を用いたのか」を児童と一緒に振り返るとともに、練習問題に十分取り組む時間を確保し、学びを自覚できるようにします。また、児童が式や図・表の着目点、考えの違いなどを明確にしながら、自分の考えを最後まで説明する場面を大切にします。あわせて、相手の意見を大切にしたり、勇気をもって伝えたりできたときに、そのよさを取り上げ、情意面を含めたよさを価値付けながら、児童一人一人の学力向上を図っていきます。

生活面について

児童の「相手を見て自分からあいさつや会釈ができている」、また保護者の「子供や地域住民、見守り隊の方に対して手本となるあいさつができている」の項目は、前期に引き続き目標値を上回る結果となりました。一方で、「困りごとや不安があるときに、学校の大人に相談できている」に関する項目は、目標値を下回る結果となりました。

3学期は、教職員が率先して元気よくあいさつや会釈を交わす姿を継続し、児童の模範となる行動を大切にします。あわせて、日頃から複数の教職員で児童の表情や様子の変化に目を向け、気になる様子が見られた際は積極的に声をかけるとともに、トラブル後の丁寧なフォローも大切にします。こうした関わりをとおして、児童が困ったときに相談できるように児童との信頼関係を深めていきます。

学級活動・児童会活動について

児童の「行事や委員会、学級会などで、進んで考えや思いを話したり参加したりすることができている」の項目は、目標値を下回る結果となりました。

3学期は、話合い活動において児童の実態に応じた指導を行い、考えをもつ時間を十分に確保するとともに、意見への反応や付け加えの発言、少数の意見も大切にしながら意見の違いや共通点を明確にする話合い方をその場で指導していきます。また、話合いが円滑に進まない場合でも、挑戦した姿や話合いを進めたりまとめたりする行動を認め、価値付ける声かけを継続します。

運動について

児童の「体育の授業で、けがをしないように気を付けながら積極的に体を動かすことができている」の項目は、前期に引き続き目標値を上回る結果となりました。

3学期も、体育施設の点検と用具の整理、用具の使用方法や片付け方など安全に関する確認を毎月定期的に実施します。また、石川県教育委員会が企画・運営している「スプチャレいしかわ」の「8の字跳び」への参加を全学級に呼びかけ、全校放送や掲示等を活用し学級で目標をもたせ意欲を喚起しながら、積極的に体を動かす態度を育んでいきます。

保護者及び地域の皆様、今後とも本校の教育活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。